

編集 社会福祉法人おおぞら会 *アクティビティセンター*-はばたけ

編集責任者 三浦 明雄

**SSKP**

**はばただより**

vol. 94

〒181-0014 東京都三鷹市野崎3-17-9  
TEL 0422-32-3234 FAX 0422-32-3274  
URL <http://habatake.jp/>



～あけましておめでとうございます～

《はばたけの班紹介》 活動班 「アートな時間」

「よお〜っと!」「えいっ!」・・・大きな和紙に自由に筆を走らせ、ダイナミックな作品を作っているのは、芸術家揃いの活動班。午後のプログラムの一つとして、4月から取り組んでいる「美術」では、毎回復や顔に絵の具をつけては、楽しくにぎやかな時間を過ごしています。最近はずりづつメンバーの集中力も上がり、筆の運びや色使いなど、その人らしさが絵に表れるようになってきました。

今年も一歩一歩着実に、みんなで作った凧のように、ゆうゆうとやってみましょうね!!

## あけましておめでとうございます 本年もよろしく願いいたします

社会福祉法人おおぞら会理事長 西原雄次郎

2006年のお正月をむかえました。皆々様、心穏やかに新年をお迎えでしょうか。いつも当法人の事業の推進のために、お金、品物、時間、気持ち、等々、様々な形で応援を下さり本当にありがとうございます。今年も何とぞよろしく願い申し上げます。

さて、私たちを取り巻く社会的な環境は大きく変化しつつあります。特に大騒ぎをしてスタートした「支援費支給制度」が、わずか2年で根本的に見直され、新しい「障害者自立支援法」の下での事業が4月からスタートします。

このことで、今更と言われそうですが、以下の3点を指摘しておきたいと思います。

### ① 「障がいの重い人ほど費用負担が多くなる」ことが納得できません。

皆様ご承知のように、使ったサービスの量に応じて費用負担が求められる制度になります。障がいの重い人たちほど、生きていくために必要なサービスが多くなりますので、その費用負担も増加するということです。…考えてみれば、障がいの重い人ほど必要なサービスの量が増えるのは当然です。これは、障がいの重い人ほど贅沢をしているからではありません。障がいの重い人ほど「普通の暮らし」をするのに多くの支援が必要なのです。サービスが無いと普通の暮らしができないのです。これは、マイナス状態をゼロに近づけるための費用なのです。これは本来税金でまかなうべきものだと思えてなりません。

### ② 地域の社会資源としての施設が、安定的に運営出来なくなることが納得できません。

利用者の皆さんの利用に応じて施設の収入が決まってくることになりますので、施設の毎月の収入が一定しなくなります。体調をくずされたり、所用で出席できないときもあることと思います。定員一杯の利用者の方々が、全員休まずに毎日出席して下さることは現実的には不可能です。4月からは、欠席者が増えるとそれだけ施設の収入は減少し、経営的には大きなダメージを受けることが予想されます。…「定員外の利用者のリストを用意して欠席者が出た場合は直ぐに連絡して来もらったら良い」とか、「職員を非常勤職員にすれば良い」とか、言われています。でも、定員外のリストに載せられた方が、出席できたり出来なかったりで落ち着いた暮らしができるのでしょうか。当事者の暮らしを施設経営の安全弁の様に使って良いのでしょうか。また、安定した就労が保障できない職場に、良い職員が永く働いてくれるのでしょうか。

### ③ 支援費支給制度は眠っていたニーズを顕在化させてくれました。

支援費支給制度は、厚労省が考えていた以上に多くの利用があり、予想を超える金額が年間200億円から300億円、あるいはそれ以上になったと言われ、制度継続が難しくなったと言われています。これは、措置制度の下で我慢をしていたサービス利用が普通にできるようになったおかげだと思えます。この費用増加のために制度の継続が出来ないと言うのです。本当にそうなのでしょうか。…国会では、児童手当の支給範囲を拡大し、年収850万円までの家庭に支給する事を検討されています。そのために新たに税源を確保して、2000数百億円のお金を捻出しようと言っています。片方では200億でだめと言いい、片方では2000億を出しましようと言っています。これはいったいどう考えたら良いのでしょうか。

厳しい環境の中でも、新しい一歩を踏み出して行きたいと思えます。

# 世界にひとつの…

ており班&てすき班 作品展示会  
食茶房むうぷギャラリー

## ており“心の織り展”

カタン、トントン…軽快なリズムで機織の音が響く  
ておりの作業室。ここでは13人の作家(利用者)たちが、  
毎日ておりの布を織っています。たくさんある糸の中か  
ら心に感じた色を織り込んだその布は、自分を表現する  
ことの楽しさ、難しさ、喜びが織り重なった、他の誰に  
も真似のできない世界にひとつの作品となります。



そんな作品たちを集めた展示会“心の織り展”が、去る11月1日から29日の1ヶ月間、三鷹市新川に  
ある「食茶房むうぷギャラリー」で開催されました。秋も深まる時期ということで、布たちも色とりどりのマ  
フラーやあたたかな雰囲気のパック、ぬいぐるみなどに変身し会場に並びました。変身させてくれたのは、ボ  
ランティアさんたち…多くの人たちの手で支えられているのもており班の特徴です。

ており班としては4年目となる“むうぷ”での展示会。会場設営も手慣れたもので、ており班のメンバーも  
自分の作品に愛情を込めてひとつひとつ並べていきました。むうぷの店員さんにも「年々、作品がよくなって  
いくね」と言われ、多くのお客さんが足を止めてくれました。食茶房むうぷは、杏林大学病院の真向かいにあ  
るのでランチタイムにはお客さんも多く、ておりに触れてもらえるいい機会となるので、これからもつづけて  
いきたいと思っています。 ☆3月にも、春のショールなどを集めた展示会をむうぷで開催予定です☆

## てすき“紙との出会い～暮らしにてすきを”

はばたけが無認可作業所だった時代から、みんなが関わることのできる仕事として活動の軸になっていたて  
すきの作業。牛乳パックをリサイクルして作る紙は、長年の研究を重ね、今では名刺・便箋・ポストカードと  
市販品に劣らない品質に近づくまでになりました。てすきの紙づくりは牛乳パックをはさみで開き、表面には  
られたビニールをはがすところから、それぞれの技を極めたエキスパートたちが手作業で行ないます。そして  
活動班・てすき班みんなの心が吹き込まれて作られた原料を、最後に熟練の職人(利用者)たちが漉きあげ、や  
っと一枚の紙ができあがるのです。こうしてできた手作りの紙は、手にとったときにぬくもりがいっぱい感じ  
られます…。

そんなてすきの世界を知ってもらいたい…今回はじめてとなる、てすき班の展示会“紙との出会い”はそん  
な思いから企画されました。てすきを活かしたタペストリーや創作紙、ランプシェードなど今まで商品化でき



なかった物にも挑戦し、私たちもあらためて紙を使って楽しむ  
という感覚を味わいました。ランプシェードに明かりをともし  
て「光に透かすときれいだね」と思わず拍手をしたり、創作紙  
の制作のため休み時間に落ち葉を集めに行ったり…てすき班  
のメンバーの目もキラキラ…。商品を販売するというだけでなく  
こういったかたちで表現の場をもつことで、てすき班のメン  
バーも自分自身の仕事に対し、自信ややりがいを持つことがで  
きるのではないかと感じました。



# ～牧場に心癒されて・・那須ツアー写真集～

はばたけ秋の旅行・那須コース～10月12日～14日 グループ

10月26日～28日 グループ

「福島スパ&リゾート」・「大阪U.F.J&くいだおれツアー」に続く今年度の最終企画、「那須ツアー」に行ってきました！旅行は2グループの日程に分かれて予定を組み、参加者は紅葉の自然に触れ、牧場などでいろいろな体験をしてきました。

広大な牧場を散策！



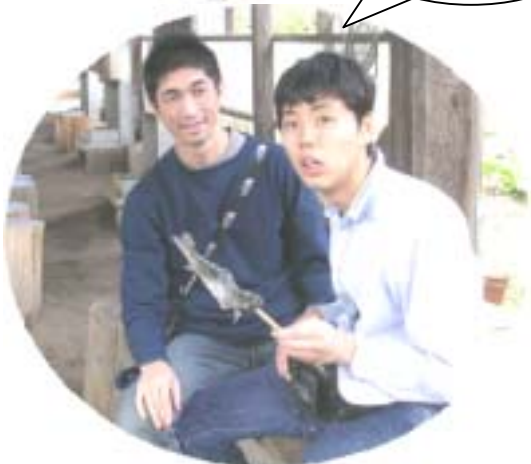
牧場の中で  
リラックス



釣りに  
チャレンジだ！



無事に  
釣れました！



今回の旅行のテーマは・・「レッツ・ゴー牧場！」  
那須高原は酪農の産地。数多くの牧場が点在しており、  
またその中でもいろいろな体験や遊びができる所を目  
をつけて「千本松牧場」と「南ヶ丘牧場」に行ってきました。

特に「南ヶ丘牧場」は、のどかな空気が流れる牧場  
気分満点の所でした。散策組もゆったりとした時間の中  
に身をまかせて敷地内を歩きました。Aさんも牧場  
内を一周して自然とふれあっている様子でした。

また、牧場内にはニジマス釣りやアイスづくり、バ  
ターづくりなどの体験コースがそろっており、さらに  
牧場の飼育体験というものまであり！いろいろな体験  
にチャレンジしてきました。Bさんは「僕もやってみ  
る。魚食べたい！」と当初の予定を変更して釣りにチ  
ャレンジ！みんなが見守る中、細い竿でニジマスを2  
匹釣り上げて満面の笑みを見せていました。もちろん、  
釣った魚は早速塩焼きにして、焼きたてのアツアツを  
食べていました。

牧場体験、ウシとも  
すぐに仲良しに



ウシにエサを  
あげました!



アイスクリームづくりにはCさんやDさんがチャレンジ!  
材料を容器に入れて、あとはハンドルをひたすら回します。  
Cさんも集中して念入りにかき混ぜていました。そして出来上がった  
アイスの味は・・・やっぱり「美味しい!」と歓声があがって  
いました。

アイスづくりにも挑戦!  
グルグルかき混ぜます!



グループは「牧場飼育体験」にチャレンジしました。持参  
のジャージと長靴、首にはタオルを巻き農作業ルックスに身  
を包み、いざ牛舎へ! 牛舎の中にはたくさんのウシがみんな  
を待っていました。飼育係の方から説明を受けて手始めに  
ウシの餌やり挑戦! 牧草が固められたシートをほどいて  
ウシの目の前に運びます。最初は緊張気味だったEさんも  
徐々にコツを覚えてきて後半は「お願いしまーす!」と大き  
な声で餌を渡していました。

そして次はいよいよウシのブラシがけに挑戦!・・・でも  
最初はみんな強張った表情で誰も近づこうとしませんでし  
た。そんな張り詰めかけた雰囲気の中、一人何も恐れずに  
ウシに歩み寄っていったのがFさんでした。仲の良い友達  
のようにやさしくブラッシング、餌を食べていたウシも心  
地よさに後ろを振り向いて「ありがとう!」と言っている  
ようでした。その他ウマの餌やりなどもFさんはとても親  
しげな様子で接していました。

できあがるまでは  
目が離せません!



いろいろな体験を通してみんなの夢中な表情をたくさ  
ん見ることができた牧場ツアー、またこういう機会をつく  
っていきたいですね!

## おおぞら会後援会ニュース

あけましてめでとうございます。本年もよろしくお願いいたします。

“清々しく新年のスタートを”…といきたいところですが、障害者福祉の世界では今年4月の本格的な法施行に向けて動き出した「障害者自立支援法」により波乱の幕開けとなりました。このままいけば、さまざまなサービスの利用料や医療費が応益負担(定率一割)となるなど障害のある人たちの生活を脅かすものとなることは目に見えている状況です。また『通所授産施設』という枠組もなくなってしまい、すべて新しいサービス体系のもとで再編されることとなり、おおぞら会の運営においてもたいへん厳しい選択を迫られることとなります。

しかし、まだ施行前であるということは私たちの声を届け新たな提言をしていくことで、この改悪を食い止めることができるということでもあります。後援会としても、本当の意味で障害のある人たちの生活を支えていける世の中になるよう、おおぞら会の活動・運動を支えていきたいと思う所存でございます。おおぞら会では、年明け早々グループホームの開設に向けて本格的に動き出します。どんなときでも展望を持ち、明るく未来を語りながら前に進んでいきたい…苦境において、逆にそんな思いを強固にさせられる次第です。

後援会員の皆さま、はばたけだより読者の皆さまにおかれましても、今年もおおぞら会ならびに後援会の活動へのお力添えをよろしくお願いいたします。

社会福祉法人おおぞら会後援会長 吉野壽夫

### ★ 後援会新規ご入会・ご更新ありがとうございました ★

2005年10月19日から12月14日までの間に、個人6名の方々からご入会・ご更新をいただきました。ありがとうございました。

これからも、皆様の暖かいご支援をいただけますよう、よろしくお願いいたします。

### ★ 後援会へご寄付ありがとうございました ★

2005年10月19日から12月14日までの間に、個人1名の方から後援会へのご寄付をいただきました。ご寄付は大切にさせていただきます。ありがとうございました。



### ★ 法人へのご寄付ありがとうございました ★

2005年10月19日から12月14日までの間に、個人1名の方から社会福祉法人おおぞら会へのご寄付をいただきました。ご寄付は大切にさせていただきます。ありがとうございました。

## ○ 後援会へのご入会・今年度分のご更新をお願いいたします ○

年会費 1口 個人 2,000円 団体 10,000円

※年会費は、お手数ですが直接お持ちいただくか、下記の口座にお振込みください。

よろしくお願いいたします。

郵便口座 00160-0-39163  
口座名義 社会福祉法人おおぞら会後



## 活動日誌 11月1日(火)～12月27日(火)まで

11月	1日	(火)	第三者評価 利用者ヒアリング ており班むうぶ展(～29日まで)	12月	1日	(木)	てすき班作品展(～26日まで)
	2日	(水)	ルーテル学院大学めぐみ祭(販売)		2日	(金)	興味別外出(ディズニーランド)
	3日	(木)	ルーテル学院大学めぐみ祭(販売)		6日	(火)	きょうされん がんばる DAY
	4日	(金)	興味別外出(水族館コース)		8日	(木)	第一生命保険労組からの寄付贈呈式
	7日	(月)	市防災課との話し合い		9日	(金)	職員会議 グループホーム説明会
	8日	(火)	第三者評価 利用者ヒアリング		14日	(水)	ており班体験実習(ワークショップMEW)
	10日	(木)	グループホーム現地調査		15日	(木)	市知的施設連絡会
	11日	(金)	ブロック交流祭、職員会議		21日	(水)	嘱託医健診
	12日	(土)	武蔵野東学園祭(販売)		22日	(木)	クリスマス会
	16日	(水)	第三者評価 運営ヒヤリング		27日	(火)	大掃除、職員会議
	17日	(木)	市知的施設連絡会		28日	(水)	年末年始休暇(～1月4日まで)
	18日	(金)	商工会説明会				
	25日	(金)	職員会議				
	27日	(日)	ひまわりバザー(販売・ルーキーズ)				

### ◎来訪された方々

TKC・吉田様 ミュージックボランティア協会・内野様 ベネッセ様  
 アリア様 健康センター・笠原様 日本イーライリリー・高橋様 七生福祉園・市川様  
 東京都在宅福祉課・水越様、倉地様 第一生命労働組合新宿総合支社様  
 NPO 電気保安協会様 ライフコミュニケーション様 ひまわり共同作業所・大沢様  
 NPO 法人メアヘルプユー様 支援センターぽっぷ・宮城様 法政大学・宮城様 調布養護学校様  
 府中朝日養護学校様 ピアいのかしら・加藤様

### ◎実習生の方々(社会福祉援助技術実習・介護等体験・養護学校進路実習)

拓殖大学・森様、高間様、秋元様、目黒様 東京家政短期大学・上條様

### ◎ボランティアの方々～いつもありがとうございます！

岡村様 榛澤様 後藤様 井上様 大野様 進藤様 稲吉様 青木様

## 第14回三鷹市民駅伝大会に参加します！

明けましておめでとうございます！

新春の駅伝のシーズンがやってきました。

はばただでは今回もチームを組んで駅伝大会に参加します。

参加メンバーは

第1区 ささきさん 第2区 きくいさん

第3区 いいじまさん 第4区 せとさん

となっています。現在、昼休みの時間を利用して練習に励んでいます。もちろん！今回も完走を目指します。今回も応援をよろしくお祈いします！

☆三鷹市民駅伝大会は

**2月5日(日)9:20スタートです☆**



information

# 第29次 国会請願署名

～やっぱい応益負担は許せません～

きょうされんの国会請願署名も今年で29回を迎えます。全国で6,000ヶ所を数える小規模作業所の本格的な制度化、厳しい運営を強いられている実態の改善という要求を長年続けてきました。

しかしながらこの問題はいまだに解消されていません。そればかりか、10月31日に成立した「障害者自立支援法」によって、障がいを持つ人びとが安心して生活することができなくなる不安があります。

福祉制度を利用する時、経費の1割を利用者が負担する「応益負担」には多くの当事者・関係者・市民から激しい批判の声があがっています。

寝返りをうつ、トイレに行く、移動する、といった日常生活に必要な支援が「益」とみなされ、地域で働き暮らすことを願い作業所に通うにも利用料を払わなければならない…少ない障害年金と作業所の工賃ではとても負担できないことは明らかです。

障がいのある人びとが安心して生活できるよう、ぜひ署名と募金にご協力をお願いいたします。

☆ しめきり 4月末まで ☆

○ お問い合わせ・署名用紙送付先はこちら

## アクティビティセンターはばたけ 国会請願係

〒181-0014

東京都三鷹市野崎 3-17-9

(担当 中野)

電話 0422(32)3234

FAX 0422(32)3274



集められた募金は、署名活動への資金、全国大会への利用者の参加費用、各作業所の運営費として有効に活用させていただきます。

### [編集後記]

こんなにどんよりしたものだっつけ…と思うくらい今年は何とも晴れない年明けだ。自立支援法という大きな低気圧が一気に日本列島を覆った昨年。厚い雲は発達しながら停滞中。なんとか雲をかき分けて、光を探さなければならないとみんな必死だ。現状に対する不安や焦りも募るが、日々利用者として接していると…この人たちの上に雨を降らせてはいけない…そんな思いが強くなる。でも思いだけでは切り開けないこともある。道すじや方法を考え、そして未来を創造する力も持たなければならない。しかし法の内容の複雑さや展開の早さに、すでに私の頭は許容量を越えてへこたれてしまいそうだ…まず今年は、そんな自分を起こすことから始めなくてははいけないかな… (いとうあきこ)

発行 障害者団体定期刊行物協会  
〒157-0073 東京都世田谷区砧 6-26-21

企画・編集 アクティビティセンターはばたけ

編集責任者	三浦 明雄	頒 価 50 円
編集委員長	伊東 暁子	
編集委員	ト部 禎生 深澤実希子	